

日高西部介護支援専門員連絡協議会 講演会

認知症になっても安心して暮せるまち
～びらとり～

～豊かなセカンドライフに向けて～

介護は誰に？

北海道新聞より

内閣府調査

- 調査時期 2012年9月、10月
- 調査対象者 1947年～49年生まれ
男女ほぼ半々の3500人
- 質問
『自分が要介護状態になった場合
誰に介護を頼みたいか？』

団塊世代が介護を頼みたい相手の比較

相手	女性	男性
配偶者	26.6	57.4
施設や病院の職員・看護師	22.5	15.1
ホームヘルパー、訪問看護師	20.7	10.4
特にいない	10.8	10.1
子	13.5	5.4
子の配偶者	0.7	0.1

認知症とは？

認知症とは（介護保険法上からの抜粋）

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。

その1

脳血管疾患、アルツハイマー
病その他の要因に基づく

原因となる疾患
約70～100

その2

脳の器質的な変化により
脳という器が壊れてゆく

その3

日常生活に支障が生じる 程度にまで

これまでできていたことが
できたりできなかったりと
困難と思える状態へと向かう

その4

記憶機能及びその他の 認知機能が低下した状態

知的な能力が変化してゆく

認知機能とは

記憶の機能

- ・ 思い出す、覚える機能

見当識の機能

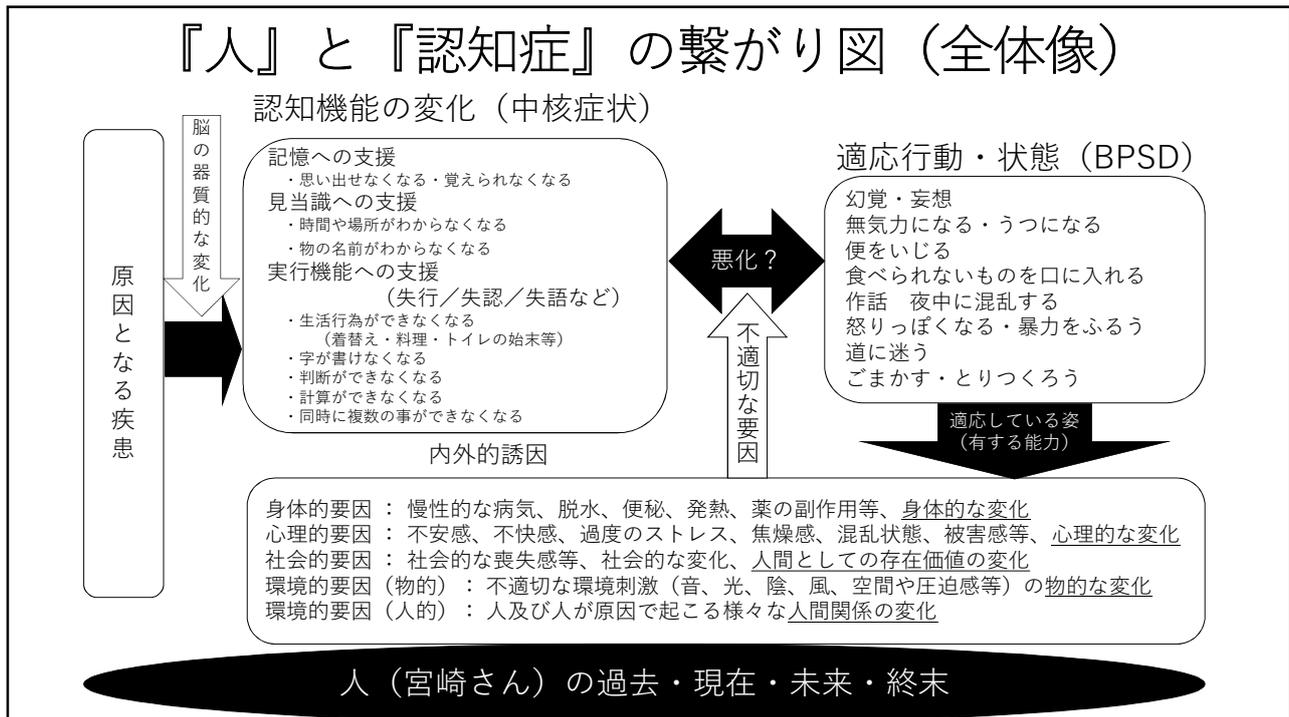
- ・ 時間や場所の見当をつける機能
- ・ 物の名前を見当をつける機能

実行機能（行為／認識／言語など）

- ・ 生活するための行為
（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・ 言葉で伝えること
- ・ 字が書くこと
- ・ 判断をすること
- ・ 計算をすること
- ・ 同時に複数の事を行うこと 等々

認知症とは（介護保険法上からの抜粋）

- ・ 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- ・ 脳の器質的な変化により
- ・ 日常生活に支障が生じる程度にまで
- ・ 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。



伊達市の取り組み

行方不明者の搜索の仕組み（システム）

伊達市事業者協力による 高齢者等地域見守り活動

愛称 「もしかしてネット」
「もしかして」に気付く、「もしかして」を無駄にしない。



伊達市における事業者協力による 高齢者等地域見守り活動

愛称 もしかしてネット

イメージキャラクター もシカくん

◆事業開始 平成23年8月31日から

◆事業概要

高齢者が安全で安心して暮らせる地域社会づくりを進めるため、高齢者地域見守り活動の一環として、伊達市と市内で配達等をされている事業者との間で協定を締結し、次の事項について、事業者に協力していただく。

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
 - ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の搜索
- * いずれも通常の業務内での協力

◆参加事業者 (H29. 6. 1現在)

- 〔郵便・宅配便〕 5
 - 〔新聞配達〕 8
 - 〔牛乳等配達〕 4
 - 〔食料品配達〕 4
 - 〔クリーニング等〕 6
 - 〔電気、燃料、水道〕 23
 - 〔金融〕 6
 - 〔コンビニエンスストア〕 17
 - 〔介護保険系サービス〕 36
 - 〔障がい者福祉施設等〕 10
 - 〔医療機関〕 1
 - 〔その他のサービス〕 8
- ◆オブザーバー 5

伊達警察署長、西胆振行政事務組合消防本部消防長、伊達市地域包括支援センター長、伊達市社会福祉協議会会長、民生委員児童委員協議会会長



イメージキャラクター
もしかくん

市内で配達等をされている事業者の皆様へ

高齢者の見守り活動にご協力をお願いします。

要称 「もしかしてネット」

「もしかして」に気付く、「もしかして」を無駄にしない。



日本は、高齢化と少子化があいまって進み、超高齢社会といわれる時代に突入しています。そんな中、高齢者の孤独死や虐待などが社会問題となってきており、高齢者の方々が安全で安心して暮らせる地域社会づくりを進める必要が生じてまいりました。

このようなことから伊達市では、市内で事業をされている皆様方に、

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
 - ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の搜索
- について、通常の業務内での協力を得られるような仕組みづくりを進め、協力をお願いすることといたしました。趣旨をご理解の上、高齢者を地域が見守れるような社会づくりの一端として何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご協力いただきたいのは、次の2点です。

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
(事業者協力高齢者異変通報ネットワーク 次項 参照)

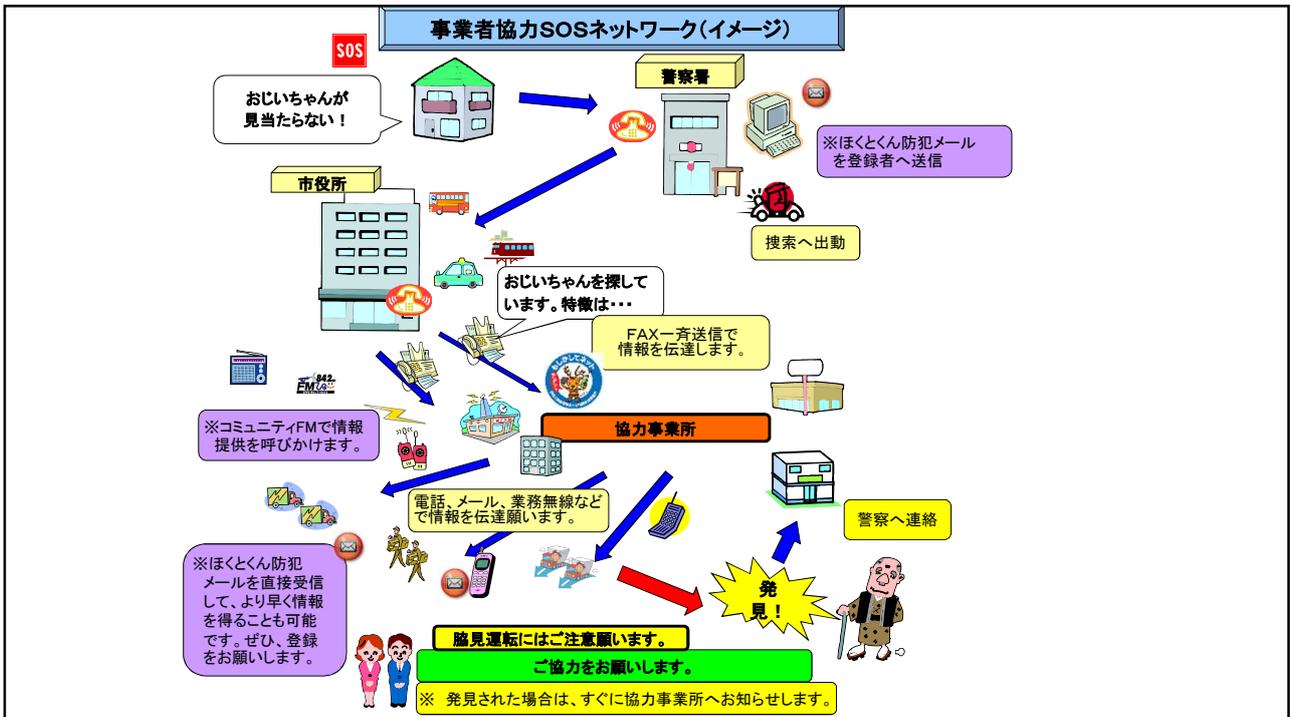
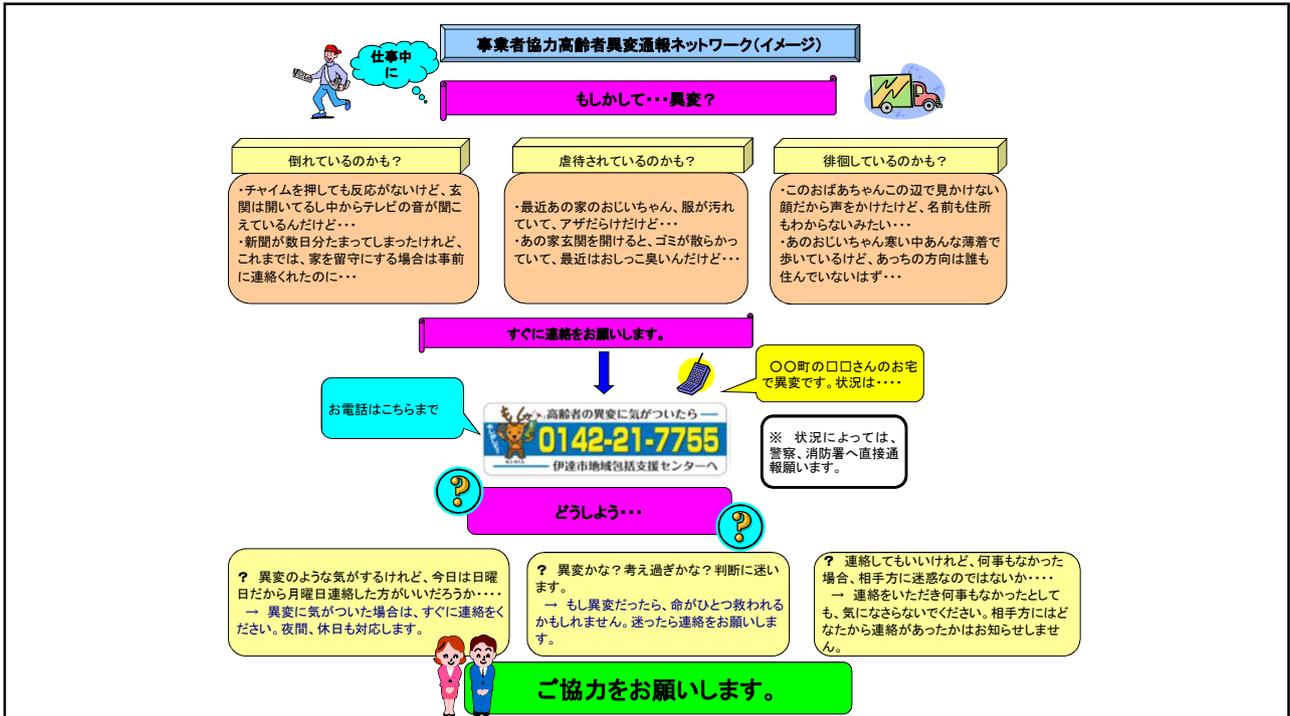
皆様が業務で(配達や検針など)、高齢者宅を訪れたときや市内を巡回されている途中で、何らかの高齢者の異変(倒れてい、虐待されている、徘徊しているなどの疑い)を感じた場合、指定先まで電話連絡をしていただくこと。

- ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の搜索
(事業者協力SOSネットワーク 4項下 参照)

行方がわからなくなり警察で搜索をしている高齢者等を皆様が業務中に発見した場合、警察まで電話連絡をしていただくこと。
※ 搜索対象者の身体的特徴や服装などの情報は、伊達市から事業者の皆様へFAX、電話、メールなどでお伝えいたします。

ご協力をお願いします。







イメージキャラクター もしかくん



角型ステッカー 100mm×30mm

丸型ステッカー 丸型マグネット
直径83mm

*ステッカーの制作には、北海道の地域支え合い体制づくり事業費補助金を活用

『もしかしてネット』実績

年度	何らかの 異変等		うち『もしか関係』		
			異変通報	徘徊疑い	SOS (FAX)
H23	17件	10件	2件 (亡1)	2件	6件
H24	21件	14件	13件 (亡1)	0件	1件
H25	20件	9件	4件 (亡0)	2件	3件
H26	18件	14件	12件 (亡0)	0件	2件
H27	17件	11件	7件 (亡0)	4件	3件
H28	26件	7件	3件 (亡0)	4件	2件

『もしかしてネット』通報例

例① 配食業者からの通報

お弁当を配達に行ったが何度チャイムを押しても出ない、本人の携帯にかけたところ、電話に出たが口が回っていない感じだった。

結果

市職員が本人宅を訪問。本人の様子から受診の必要性があると判断し、救急車を要請し病院へ搬送。脳血管疾患と診断され入院となった。

例② 業者からの通報

本人と事前に約束していた時間に訪問したが、不在の上、新聞が郵便受けに残されたままだったので、心配になり通報。

結果

一人暮らし世帯として登録のあった市内在住の長女へ連絡し本人の携帯へ連絡してもらったところ、寝室でテレビを大音量で見ていたため訪問に気付かなかったとのこと。

『もしかしてネット』通報例

例③ 民生委員からの通報

玄関に新聞がたまっており、ドアをノックしても応答がない。

結果

各方面に連絡を試みたものの、安否確認ができなかったため、別に住む子から自宅のドアを壊して警察が入ることの同意を得て、警察がドアを壊して入ったところ、既に死亡していた。

例④ ケアマネジャーからの通報

サービス提供のために自宅に向かうも鍵がかかっており、カーテンも閉まっている。電話にも呼び鈴にも応答がない。と担当ケアマネより通報。

結果

親族の合鍵を使用し自宅内に入ったところソファ前につつ伏せになっているところを発見。病院へ搬送。



伊達市における事業者協力による高齢者等地域見守り活動 もしかしてネット参加事業者の皆様へ



日頃から、「もしかしてネット」に御協力いただき誠にありがとうございます。高齢者が安心して暮らせるまちづくりのため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

お願い

ちょっとでも異変を感じたらすぐに連絡をお願いします。

事業者の皆様におかれましては、これまでも高齢者の見守りに多大なるご協力をいただき、異変通報をしていただいておりますが、少しでも「いつもと違う」「様子がおかしい」などの異変を感じたら、すぐに地域包括支援センターに連絡をしていただきますようお願いいたします。



おしらせ

ステッカー類は傷んでいませんか？

「もしかしてネット」のステッカーで、傷んでしまったものはありませんか？汚れてしまったり、色が薄くなってしまったものは交換をお願いします。お電話でご連絡ください。すぐにお届けいたします。新たにマグネットタイプも用意しましたので、こちらもお申し付けください。

※ ステッカー類の貼付は、あくまでも任意です。



伊達市健康福祉部高齢福祉課高齢者福祉係

電話 0142-23-3331(内302・303) FAX0142-21-5147

美唄市の取り組み

**おれんじカフェ
ひば**

悩みや相談を、お茶を飲みながら
ゆったりとした時間の中で話しませんか。
認知症カフェ「おれんじカフェひば」は
そんな場所です。



開催日 毎週（火）11時～15時

住所 美幌市大通西1条北1丁目1-12
（空知クリーニング工場向かい）

電話番号 62-5580（開催日のみ）

問合せ先 美幌市役所高齢福祉課
62-3156



『おれんじカフェひば』の開設について

<認知症カフェ開設の目的>

- ①認知症を抱えているご本人、支えているご家族の話を聴く場所
- ②早期発見、早期治療に繋げていく入口としての場所
- ③地域の方々が病気の理解、支援方法等を知ってもらえる場所
- ④地域が求めるニーズを知る場所、人材育成の場所

主な内容

・毎週（火）に開催し特にプログラムはなく、ゆっくりとした環境（音楽を流したり、お茶を飲みながら）で話をします。開催時間中であれば出入りも自由です。

・認知症のことを心配している地域の人々、よく理解をしようと思っている人々に対し理解していただくための研修会（認知症サポーター講座等）や、予防、早期発見の方法や体操等の活動の実施。

おれんじカフェぴばの1年間の利用人数について



※ 下記の数値は平成27年9月30日オープンから平成28年9月27日までの1年間の人数となっています。

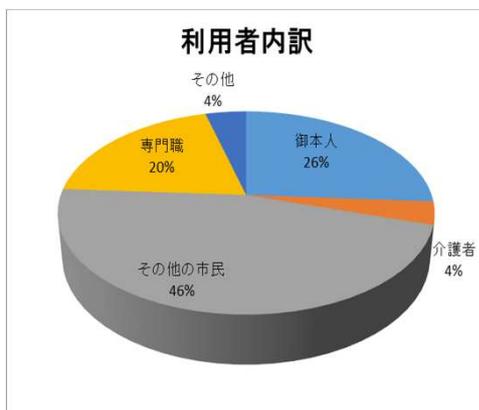
①1年間の利用人数:839人 (1日の平均利用人数:15.8人)

②男女比について



	人数
男性	366人
女性	453人

③利用内訳について



	人数
御本人	207人
介護者	29人
その他の市民	368人
専門職	158人
その他	33人

※ H27年9月27日～10月27日までは利用者の内訳をカウントしていなかったため人数には入れておりません。

利用者の方からの声



- ・話ができるのがうれしい。
- ・色々な人と出会えるのが良い。
- ・利用すると気分的に違う。話せる場所があるのはいい。
- ・来て良かったと思える。
- ・初めは知人からの紹介で来たが、今は知人から連絡をもらってここに來るのが楽しみになっている。
- ・來ることが楽しみ

おれんじカフェぴばで 一緒に活動しませんか



協力していただける方は・・・

アンケート9に名前・住所・電話番号を記載してください。

ボランティアとして協力していただくためには

- ・本日の研修の受講 と
- ・11月27日に開催される

認知症サポーター養成講座の受講が必要です。

本日の講演会、認知症サポーター養成講座を受講していただき、ボランティアとして活躍することができます。

皆さんのご協力をお願いいたします



チーム（地域）で合意形成しているか？
チーム（地域）で共有しているか？
チーム（地域）で同じ方向を向いているか？

又は、そうなるようそれぞれ（地域住民／国民）が
努めているか？

**チーム（地域）ケア（人を支援する仕組み）
にとってもっとも大切な考え方**

顔の見える関係から
何かあった時にお互い思い描ける
関係へ
その輪を広げてゆきたい

どんな形でもいい
自分たちの地域（くに）は
自分たちで創り育む

どんな障害があっても
笑い飛ばせる関係があるといい

『もし、私が認知症になったら・・・』

• して欲しくないこと

• して欲しいこと

『もし、私が認知症になったら・・・』 (平取町編)

◇こんなふうに住らしたい

- ・どんなところ（まち）で
- ・どんな人（家族・近所・専門職など）と
- ・どんなふうに

『まとめ』

3つの大切なこと

- ①『自分のことは自分ですること』
- ②『互いに助け合うこと』
- ③『社会と繋がっていること』

「帰りたい」

あなたはどう対応しますか？

「帰りたい」⇨帰宅願望・帰宅欲求なんかじゃない

「帰りたい」って言う人がいます。「帰りたい」のは山々だけど、「帰れない」ことも薄々感じています。本当は、「帰れない」けど「帰りたい」という気持ちをただわかって欲しいだけなのです。みんな「帰りたい」でも「帰れない」。人は本当の気持ちを言いません。本当は「私の気持ちをわかって」「帰りたい」気持ちをわかってもらえなくて悲しいのです。そう言っているだけ。一度その気持ちを受け止めて心から聴いてあげて下さい。「帰りたい」という気持ちと、「帰りたくなる」私の周りの私の扱いに気づいて下さい。洗濯物をたたむことで誤魔化さないで下さい。料理をつくることで誤魔化さないで下さい。レクや療法をして誤魔化さないで下さい。ドライブや買い物で誤魔化さないで下さい。「帰りたい」気持ちの裏に耳を傾けて欲しいだけです。「帰りたいですね、わかりました」と一言でいいから、気持ちを受け止めて下さい。まずは「はい、わかりました」と、ただそれだけでいい、わかって下さい。

支えの大きな2つの柱

1. 病気にならないための地域づくり
2. 病気になっても大丈夫という地域づくり

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。